

令和 5 年 6 月 27 日現在

機関番号：24405

研究種目：基盤研究(C)（特設分野研究）

研究期間：2018～2022

課題番号：18KT0054

研究課題名（和文）内戦原因の歴史的時間：前植民地期・植民地期の残滓と国家・国際社会の役割

研究課題名（英文）On the Historical Origins of Modern Civil Conflicts

研究代表者

伊藤 岳 (Ito, Gaku)

大阪公立大学・大学院経済学研究科・准教授

研究者番号：80773895

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,300,000円

研究成果の概要（和文）：本研究では内戦の歴史的原因を巡る実証分析に取り組み、研究期間内の主な成果として、2本の論文が研究期間内に領域上位の国際誌（Journal of Conflict Resolution誌およびJournal of Peace Research誌）において公刊され、他の1本の論文が査読付国際誌で公刊され、英語書籍と日本語書籍にも各1本の論文が収録された。また、一般向けの日本語の論考も1本公刊に至った。

研究成果の学術的意義や社会的意義

テスト重要性を認識されながら、史料やデータセット、分析手法の不足から体系的な実証が不足してきた内戦研究の論点に、内戦の歴史的原因がある。たとえば、植民地化以前の民族集団の居住分布や植民地化によるその分断、植民地の政治・経済制度的な残滓や独立後の政治体制は、国内平和をいかに、なぜ規定するのか、またより一般的に、植民地化前・植民地期・植民地後の要因は、内戦の生起をいかに、なぜ左右するのかといった問いに、従来の研究は十分回答できなかった。本研究は、こうした問いを巡る実証研究に取り組み、査読付き国際誌論文等の形で具体的な成果を提出できた。

研究成果の概要（英文）：This research project has primarily focused on the empirical analysis to explore the historical factors contributing to contemporary civil conflicts. Throughout the research period, significant accomplishments were achieved. Two articles were successfully published in highly esteemed international journals within the field, specifically the Journal of Conflict Resolution and the Journal of Peace Research. Additionally, another article has been published in a peer-reviewed international journal. Moreover, I had the privilege of contributing a book chapter to both an English and a Japanese edited volume. Furthermore, a paper tailored to the interests of the general Japanese audience was published.

研究分野：国際関係論

キーワード：武力紛争 内戦 空間データ 地理情報システム（GIS） 歴史現象の長期的影響

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

1. 研究開始当初の背景

植民地化以前の民族集団の居住分布や植民地化によるその分断、植民地の政治・経済制度的な残滓や独立後の政治体制は、国内平和をいかに、なぜ規定するのか。より一般的に、植民地化前・植民地期・植民地後の要因は、内戦の生起をいかに、なぜ左右するのか。歴史的背景・文脈は、民主主義体制や介入・援助のような政治制度・政策的処方箋と内戦の関係をいかに、なぜ規定するのか。歴史的背景・文脈は、民主主義体制や介入・援助のような政治制度・政策的処方箋の有効性をいかに、なぜ規定するのか。また、その背後にはいかなる因果メカニズムが働くのか。

重要性を認識されながら、史料やデータセット、分析手法の不足から体系的な実証が不足してきた内戦研究の論点に、こうした内戦の歴史的原因がある。すなわち、従来の研究は内戦の現代的原因を多様な空間的スケールで探求してきた一方で、多様な時間的スケール（植民地化以前から現代）で内戦原因を検証する研究が不足している（図 1）。具体的には、内戦原因を巡る先行研究には (1) 歴史的原因を巡る知見の不足に加えて（図 1 上段）、(2) 介入・援助のような現在の政治制度・政策的処方箋の効果が歴史的原因・文脈に依存する可能性の看過という 2 つの課題が残る。たとえば、その学術的・社会的・政策的意義にもかかわらず、体系的な回答が与えられてこなかった問いに、以下のものがある。

		空間的スケール		
		局所的	国家的	国家横断的
時間的スケール	歴史的	(1) 局所的・歴史的原因 例：前植民地期の民族集団居住分布と内戦	(2) 国家的・歴史的原因 例：前植民地期の国家の政治体制と内戦	(3) 国家横断的・歴史的原因 例：植民地期の政策・制度と内戦
	現代的	(4) 局所的・現代的原因 例：現在の民族集団の居住分布と内戦	(5) 国家的・現代的原因 例：現在の国家の政治体制・経済状況と内戦	(6) 国家横断的・現代的原因 例：第三国・国際組織による介入・援助と内戦

図 1：内戦原因の時間的スケールと空間的スケール

従来の研究は内戦の現代的原因を巡って多様な知見を提示してきた。他方で、歴史的原因を巡る研究が不足している（グレーの網掛け部分）。また、時間的スケール（上段と下段）を横断する研究は完全に欠落している。

- a) 局所的空間と歴史的時間（図 1 (1)）：民族集団の植民地の境界線・国境による分断は、内戦の蓋然性をいかに、なぜ規定するのか。
- b) 国家的空間と歴史的時間（図 1 (2)）：植民地化以前に存在した国家の歴史・制度的残滓は、内戦の蓋然性をいかに、なぜ規定するのか。
- c) 国家横断的空間と歴史的時間（図 1 (3)）：仏領植民地・英領植民地・独領植民地といった異なる植民地の政策・制度的残滓は、内戦の蓋然性をいかに、なぜ規定するのか。
- d) 歴史的要因と現代的要因の相互作用：(a) から (c) のような歴史的要因は、現在の政治制度や第三国・国際組織の介入のような要因が、内戦生起に与える効果を左右するのか。また、現在の制度・政策は、歴史的要因の効果（e.g.,内戦生起の蓋然性を高める）を縮減できるのか。

上記 (a) から (d) のような時間・空間を横断する内戦原因を巡る問いに回答する研究は少ない。特に、(d)「歴史的要因と現代的要因の相互作用」を巡る問いのような、歴史的時間と現代的時間を横断する研究は、完全に欠落している。

2. 研究の目的

上述の先行研究に残る課題を踏まえ、本研究では、史料・歴史地図、計量分析と GIS を用いて (1) 内戦の歴史的原因と (2) 歴史的原因と現代的原因の相互作用を巡る実証的知見を提示することで、上述のような先行研究の不足・欠落を補うことを主な目的とした。

3. 研究の方法

上記の研究目的に対応する形で、研究期間を通じて、本研究では次の作業を通して研究を進め、内戦の歴史的原因や、歴史的要因と現代的要因の相互作用を巡る実証分析に取り組んだ。具体的には、図 2-3 に示した民族居住地と国境による分断、奴隷貿易の被害のような歴史的データや、現在の多数の内戦をカバーするデータセット、地理情報システム (geographic information system, GIS) と統計的因果推論の手法を用いて、これらの実証分析に取り組んだ。特に、実証分析の中心とし

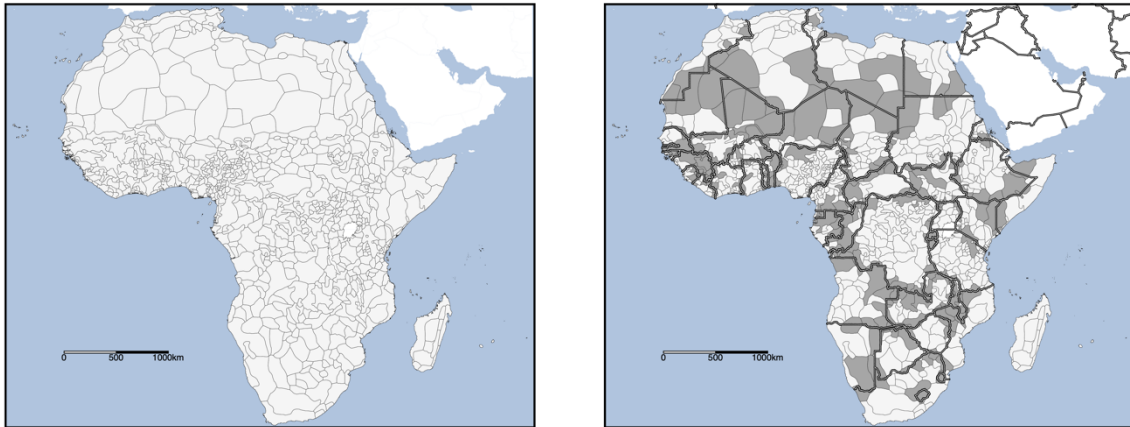


図2 アフリカ諸国における民族集団の居住分布(左)および国境による居住地の分断(右). Nunn (2008) が電子化した Murdock (1959) の地図を用いて作成。

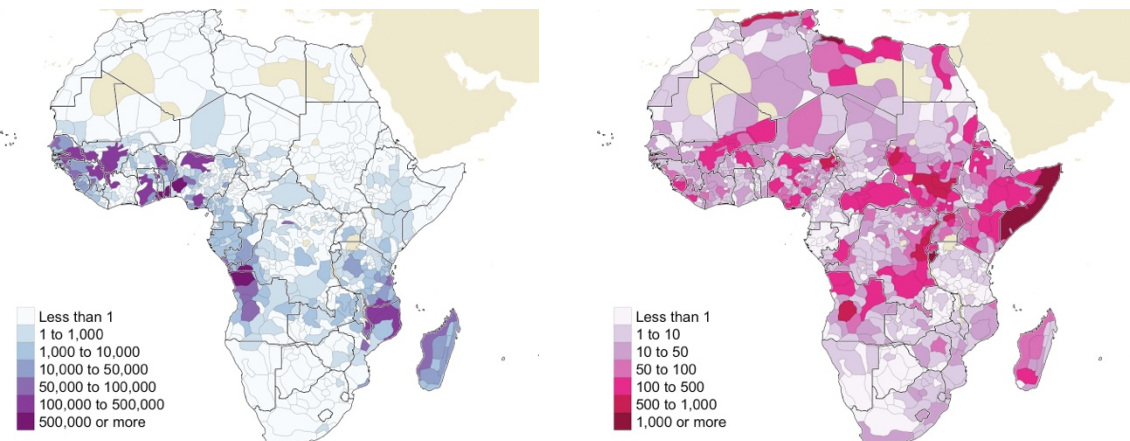


図3 アフリカ諸国における民族集団単位での奴隷貿易の被害(左)および現在の紛争イベント発生件数(右). Nunn & Wantchekon (2011) および PRIO Armed Conflict Location and Event Dataset (ACLED, Raleigh et al., 2010) を用いて作成。

て、図2のような地図に加え、夜間光放出量のような衛星画像由来のデータ、市区町村のようなローカルなレベルでの戦闘・暴力の発生地点・時点を把握可能な空間データ(e.g., PRIO ACLED)を用いた。こうした空間データを用いることで、歴史的要因と現代的現象の双方についてそのローカルな様相を体系的に把握でき、両者の関係性やそれを生み出すメカニズムを巡る実証分析に取り組むことができる。

4. 研究成果

研究期間を通じて、国際誌論文や国際学会等で研究成果を公表できた。具体的には、2本の論文が研究期間内に領域上位の国際誌(*Journal of Conflict Resolution* 誌および *Journal of Peace Research* 誌)において公刊されたほか、*Journal of Peace Research* 誌に掲載された論文(Ito, Gaku, 2021. “Why Does Ethnic Partition Foster Violence? Unpacking the Deep Historical Roots of Civil Conflicts.” *Journal of Peace Research* 58(5): 986–1003)は *The Journal of Peace Research Best Visualization Award 2021* を受賞した(<https://www.prio.org/journals/jpr/visualizationaward/2021>)。さらに、他の1本の論文が査読付国際誌で公刊され、英語書籍と日本語書籍にも各1本の論文が収録された。また、一般向けの日本語の論考も1本公刊に至った。また、データ作成や分析の途上、あるいは査読プロセスにあり、研究期間内に公刊に至らなかった他の複数の論文についても、公刊に向け作業を進めている。これらの公刊前の論文の一部は社会科学系論文レポジトリ SSRN (Social Sciences Research Network, <https://www.ssrn.com/index.cfm/en/>)においてワーキングペーパーとして公開し、研究代表者の個人ウェブサイト(<https://gaku-ito.github.io>)でも公開した。

また、本研究計画は研究代表者単独のものだが、関連する研究の一部は従前より協力関係にあった国外の研究者との共同研究として発展させ、進めることができた。上述の成果の一部もこうした国際共同研究によるものであり、この協力関係は、本研究計画の成果とも密接に関連する、今後の発展的な研究計画の基盤ともなった。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計3件（うち査読付論文 3件 / うち国際共著 1件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 Ito Gaku	4. 巻 58
2. 論文標題 Why does ethnic partition foster violence? Unpacking the deep historical roots of civil conflicts	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Journal of Peace Research	6. 最初と最後の頁 986-1003
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1177/0022343320957377	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Ito Gaku, Hinkkainen Elliott Kaisa	4. 巻 64
2. 論文標題 Battle Diffusion Matters: Examining the Impact of Microdynamics of Fighting on Conflict Termination	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Journal of Conflict Resolution	6. 最初と最後の頁 871 ~ 902
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1177/0022002719885428	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Kubota Yuichi, Ito Gaku, Harada Masataka	4. 巻 49
2. 論文標題 Making sense of violence in semi-technologized conventional civil war: Evidence from nineteenth-century Japan	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 International Interactions	6. 最初と最後の頁 401 ~ 423
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1080/03050629.2023.2180501	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計11件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 8件）

1. 発表者名 伊藤岳
2. 発表標題 On the Persistent Effects of the Slave Trade on Postcolonial Politics in Africa
3. 学会等名 日本政治学会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Gaku Ito
2. 発表標題 On the Persistent Effects of the Slave Trade on Postcolonial Politics in Africa
3. 学会等名 International Studies Association (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Gaku Ito and Jun Koga Sudduth
2. 発表標題 How Peacekeeping Escalates Battles: Effects of the UN Peacekeeping on Civil War Battles
3. 学会等名 American Political Science Association (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Ito, Gaku, and Masataka Harada
2. 発表標題 Historical Image Analysis with Machine Learning An Evaluation of the WWII Tokyo Air Raid Damages
3. 学会等名 Japan Society for Quantitative Political Science (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Ito, Gaku, and Masataka Harada
2. 発表標題 Historical Image Analysis with Machine Learning An Evaluation of the WWII Tokyo Air Raid Damages
3. 学会等名 American Political Science Association Annual Meeting (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Harada, Masataka, and Gaku Ito
2. 発表標題 On the Community-Level Legacies of Indiscriminate Violence: Evidence from the Bombing of Tokyo in 1945
3. 学会等名 Pacific International Politics Conference (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 伊藤岳
2. 発表標題 Why Does Ethnic Partition Foster Violence? Unpacking the Deep Historical Roots of Civil Conflicts
3. 学会等名 日本国際政治学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Ito, Gaku
2. 発表標題 "Exploring the Drivers of the Colonial Expansion: A Historical GIS Approach"
3. 学会等名 Pacific International Political Conference (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Ito, Gaku
2. 発表標題 "When Do Colonial Legacies Matter? Unpacking the Long-Term Determinants of Civil Conflicts"
3. 学会等名 General Conference of the European Consortium for Political Research (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Ito, Gaku
2. 発表標題 “When Do Colonial Legacies Matter? Unpacking the Long-Term Determinants of Civil Conflicts”
3. 学会等名 日本政治学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Ito, Gaku
2. 発表標題 “Why Does Ethnic Partition Foster Violence? Unpacking the Long-Term Determinants of Civil Conflicts”
3. 学会等名 International Studies Association (国際学会)
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計2件

1. 著者名 伊藤岳	4. 発行年 2021年
2. 出版社 東京大学出版会	5. 総ページ数 326
3. 書名 「第6章 国際制度としての国境の計量分析：国境画定がもたらす民族紛争への影響」鈴木基史・飯田敬 輔編『国際関係研究の方法：解説と実践』	

1. 著者名 Gaku Ito	4. 発行年 2021年
2. 出版社 Springer	5. 総ページ数 309
3. 書名 "On the Electoral Consequences of Increasing Chinese Imports: Insights from the Japanese Lower House General Elections, 2009-2017," in Jun Ma and Masashi Yamamoto (eds.) Growth Mechanisms and Sustainability: Economic Analysis of the Steel Industry in East Asia, Chapter 11	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------